

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成を目指し、キリスト教主義に基づく全人教育を通して、他者、特に幼い者を愛し仕える高い使命感を持った保育者を養成する。 ・幼稚園教諭・保育士となる際に必要な基礎的・基盤的な学習ができるよう、教育課程、教授内容を改善する。 ・保育の現場に立つ使命感を構築できるよう、実習や授業など有意義な機会を提供する。 ・新しい教育課程の基本となる幼児期に育みたい資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性」の内容について、学生が体得できるように教授する。また、最新の子どもに関する調査結果などを積極的に取り入れ、時代にあった幼稚園教諭、保育士、保育教諭の養成に努める。 ・学習成果の検証の実施と見直し ・多様な学びを卒業後も続けることができるように、コース制について検討する。 ・学生支援体制の見直しと充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールモットーの浸透度が増し、保育者になるという意欲や、他者のために奉仕しようとする高い使命感を持った学生の育成が行われている。 ・保育を学び、保育の現場に就職する人数を維持している。 ・保育者になるという意欲や高い使命感を持った学生の育成が行われている。 ・学習成果の測定と評価が着実に行われ、教育の質の保障に向けた取り組みがなされている。 ・本学の卒業生に対する社会的評価がさらに向上している。 ・保育を学んだことを基盤として、この学びを継続し深めたり、新たな分野において学びを深めたりする人数が増加している。(編入・進学等)
<p>2. 志願者獲得の方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜試験等、「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価するものへと改善する。 ・聖和短期大学の魅力を伝えるための広報の戦略を常に検討する。 ・中高生向けの広報を充実させる。 ・オープンキャンパスの時期や内容を検討する。 ・多様な進路を選択できるように、編入制度の充実と周知を図る。(大学・高等部との接続) ・高校との連携を充実させる。(高校への出張授業等)特に、保育系コースを持つ高校との連携を強化する。 ・保育団体や地方自治体との連携を強化し、保育者を目指す人材を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を目指す受験生や保育を学びたい受験生が確保され、受験者数が減少していない。 ・SNSやHPへのアクセス数が増加している。 ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園と、保育者養成に於ける連携がさらに深まっている。 ・オープンキャンパスの参加者が増加している。複数回参加者が増加している。 ・高校での授業に引き続き、本学での学びを希望する学生が増加している。
<p>3. 研究、保育現場などとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野に関する研究を深める。 ・保護者、卒業生などへの情報発信を充実させ、本学との繋がりを強化する。 ・幼稚園教諭、保育士、保育教諭の資質・能力の向上を目指した研修等を充実させる。 ・保育団体などとの連携を深め、ブランド力をさらに高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究助成金などの外部資金と寄付金の獲得が増加している。 ・現職教育の実施機関として認知され、多くの受講生が受講している。 ・保育分野においてブランド力がさらに高まっている。

4. 認証評価の受審 短期大学基準協会での認証評価の受審準備、規定・制度の見直し。	・評価結果「適格」の評価を公表している。
5. 短期大学の長期的ビジョンの検討 今後の短期大学の在り方について、W.G.を組織して検討する。	・短期大学の在り方について、幾つかの方向性が検討されている。
6. 中期的な課題 <ul style="list-style-type: none"> ・志願者の獲得 ・教育の質保証 ・学生支援体制の見直しと充実 ・ST比率の見直し ・入試業務の効率化 ・大学の社会的活動の充実 ・実習施設との協力体制の構築 ・保護者への情報発信の充実(保護者対応) 	

【重点施策】	【中期総合経営計画 実施計画】として取り組むものに○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 広報戦略の充実	
③ 授業内容の充実	
④ 学生支援体制の推進	
⑤ 質の高い保育者の輩出	
⑥ 再教育システムの充実	

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

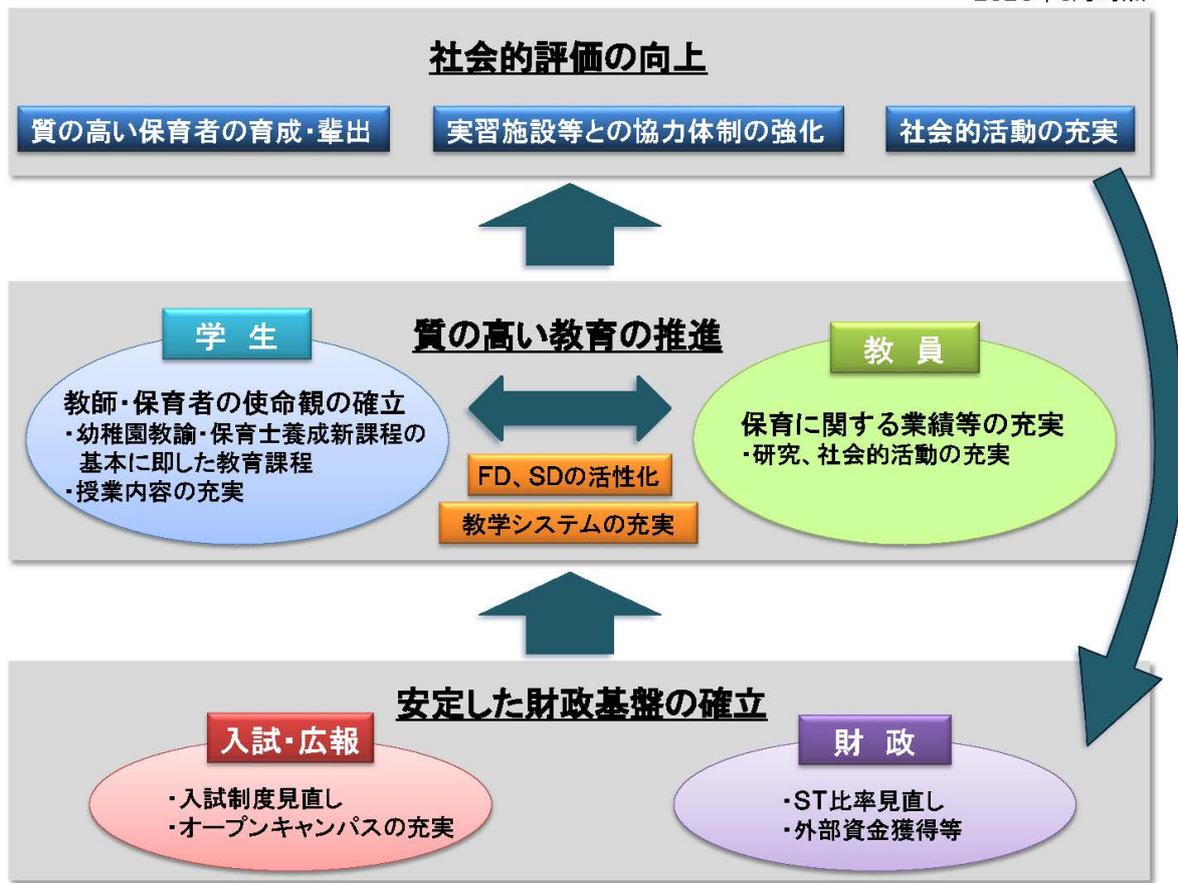
②-1 広報施策の拡大、②-2 出願高校数、②-3 オープンキャンパス来場者数、②-4 志願者数、③-1 授業の到達目標の達成度、③-2 DPに定める資質能力の獲得状況、③-3 免許資格取得率、③-4 学習成果の獲得状況、③-5 学習成果の実践度、③-6 教員の研究成果の発表・発信状況、④-1 学生満足度、⑤-1 就職率、⑤-2 就職先からの評価、⑥-1 短大が行う研修への参加状況、⑥-2 研修参加者の満足度

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2020年9月時点)

子ども・子育て支援の「量的拡充」、「質の向上」施策により、昨年度よりも保育の人材不足の状況がさらに進行している。次の時代を見通した幼児教育ができる保育者の養成と現職教育の充実を図り、そのニーズに応える責任を果たしたい。在学生及び就職先からの評価も高く、これらの指標については気を緩めることなく日々の教育活動を充実させたい。入学者確保については、厳しい状況となった。高等教育の無償化、大学の入試制度改革、新型コロナウイルス感染拡大など、これからの状況の判断が難しい状況であるが、2年間で保育に関する職業などに必要な能力を学ぶという本学のメリットを積極的にアピールした入試・広報戦略を実施する。

【取り組みの全体像】

2020年8月時点



以上